

令和7年度 広陵町子ども・子育て会議 議事要旨

日時:令和7年8月29日(金)午後1時30分～午後3時30分

場所:広陵町総合保健福祉会館 4階 中会議室

1. 会議次第

1. 開会

2. 町長あいさつ

3. 教育長あいさつ

4. 会長あいさつ

5. 議事

(1) 広陵町子ども計画策定に向けたこどもの意見反映ワークショップの実施報告書について

(2) 就学前教育・保育施設(幼稚園・保育園・こども園)及び放課後子ども育成教室の状況について

(3) その他

6. 閉会

2. 配布資料(事前送付分含む)

・会議次第

・広陵町子ども計画策定に向けたこどもの意見反映ワークショップ実施報告書

・就学前教育・保育施設(幼稚園・保育園・こども園)及び放課後子ども育成教室の状況について

・こどもの居場所事業実施チラシ

3. 会議出席者

委員 16名のうち13名出席

事務局 11名

オブザーバー 1名

4. 議事要旨

1. 開会

事務局の進行により開会

2. 町長あいさつ

〈町長〉

「私は住民との対話を重視し、町民第一の町づくりを目指している。こどもの健やかな成長や

教育、安心して子育てができる環境整備を政策の柱とし、不妊治療支援や小中学校給食無償化を推進している。少子高齢化が進む中でも子育て世代の流入によって保育ニーズが増加している現状において、待機児童問題に対応するため認定こども園の整備を進めており、令和 9 年度までに全小学校区への設置を目指している。

広陵町では待機児童解消に向けた取り組みを着実に進めている。今年 7 月には民間学童保育園が開設され、来年 3 月には「広陵町こども計画」を議会に上程する予定であり、この計画は子ども・子育て支援の将来を描く重要な指針である。先日開催された計画策定ワークショップでは、こどもたちから率直で力強い意見が寄せられた。彼らの意見からは、将来を担う世代ならではの新鮮な視点を感じることができた。本日の会議では、その報告を事務局が行う予定である。委員のみなさまには審議を通じて、より良い計画となるよう協力をお願いする。広陵町のこども計画づくりに関連して、先日出会った中学生と改めて交流する機会があった。町長室に訪れてくれたこどもたちと保護者らと急遽懇談の場もあった。そこで広陵町に関する鋭い質問が飛び交い、心温まる話題も共有された。その場でこどもたちと対話することで多様な視点を共有することができた。このようなこどもたちや町民との幅広い交流を大切にしながら町づくりを進めていく所存だ。委員のみなさまには引き続き理解と協力をお願いする。」

3. 教育長あいさつ

〈教育長〉

「まだまだ暑い日が続いている中、小中学校や幼稚園などの新学期が目前に迫っており、熱中症対策が重要である。広陵町では、小学校にウォーターサーバーを設置するなどの対策を進めている。また、ネッククーラーを冷やすための冷凍庫設置も計画しているが、準備は遅れている状況である。過去の事故を教訓に、こどもたちの安全を最優先にした環境整備を早急に進める方針である。

広陵町では、「広陵町こども計画」策定に向けた取り組みを進めている。子どもの生活実態調査や意識調査の結果を基に、議論を重ねているところである。私も 7 月 26 日に開催された第 1 回ワークショップに参加し、18 名のこどもたちが非常に真剣に自分たちの思いを話してくれた様子を見聞きした。これらの声を政策に反映させ、「こどもまんなか社会」の実現を目指している。

本日は委員のみなさんからの意見を伺い、より良い環境づくりを進めていく参考にしたいと考えている。」

4. 会長あいさつ

〈会長〉

「皆様、本日はお忙しい中お集まりいただき感謝している。この夏休みにはこどもワークショップが開催されたが、私は参加できなかった。ただ、学生が参加し、報告書を通じてこどもたちの率直な声を知り、大変感銘を受けた。また、昨日広陵町の公式 LINE で目にした「こどもの居場所づくり」について、実際に施設を見学した。道中は道幅が狭かったものの、施設は立派であり、こどもたちが遊ぶ様子が非常に印象に残った。

施設内にはカフェや食事の提供もあり、今後こども向けメニューが充実する予定だという。この活動は、高齢者とこどもたちの交流を促進する素晴らしい一歩であると感じている。本日はみなさまの意見をぜひ伺いたいと考えている。」

4. 議事

〈事務局〉 議事(1)について説明

配布資料に沿って、広陵町子どもの生活実態調査、子ども・若者の意識調査報告書について説明を行なった。

〈会長〉

「議事について、委員の皆さんにご質問やご意見をお聞きする。」

〈委員 A〉

「特に心に残ったのは、中学生の「自分たちの声で町が良くなると思うと嬉しい」といった前向きな声や、友達を誘いたいと回答した子が 7 割もいた点であり、大きな希望を感じた。一方で課題として、「先生が疲れて対応が難しい」「学校に行けない子の相談室が必要」という現実的な意見があり、改善すべき点も見えた。

また、「安心して支え合える町」「周りの人が親切で幸せを感じる町」といったこどもたちの言葉から、地域との関わりの中で育つ彼らの視点を垣間見ることができた。大変印象的である。今後もこどもの声を生かした取り組みを進めていきたいと考えている。6 月 25 日の議事録を拝見し、挨拶の重要性について改めて感じた。こどもたちが挨拶をしやすくする方法を家庭や学校、地域、行政が協力して考える必要がある。

協働のまちづくり推進課が行っている町の小学校高学年向けの「挨拶」や「感謝」「お互い様」をテーマとした出前講座は非常に良い取り組みであり、こどもの成長に繋がる効果が期待できる。さらに今回、行政や町長室との繋がりを持つ機会を得たこどもたちにとって、大きな経験となったと感じている。今後も人との繋がりを重視し、こどもが育つ視点をこども計画に組み込んでいければと思う。」

〈委員 B〉

「私はまだ小学生以下のこどもを育てているが、前回の会議を通じて挨拶の大切さを改めて感じた。保育園の送り迎えや散歩中には、小学生や中学生に娘と一緒に挨拶をするよう心掛けている。元気に返してくれる子もいるが、緊張や恥ずかしさから返事がない場合もある。その際には娘に「いろんな理由があるんだよ」と伝えている。近所のこどもたちに積極的に挨拶することを通じて、自分のできることを続けていきたいと考えている。」

〈委員 C〉

「今年から小学校に通い始めた息子は外遊びが大好きだが、今年の夏は暑さ指数が高いと校舎内に避難することがあった。その際、教室内で遊ぶことになるがスペースが限られている。暑さ対

策として、空調の整った未使用の教室を開放するような工夫ができれば良いのではないかと考える。

住宅街の道路で子どもたちが遊ぶことがあるが、危険を感じている。また、公園ではボール遊び禁止の場所が多く、練習場所が不足している状況だ。サッカーや野球のチームに所属している子どもたちも多くいると思うので、個人で練習できるような、自由にボール遊びができる広い場所があれば良いと考える。」

〈委員 D〉

「今回のイベントでは、高校 2 年生 4 人が参加しており、大人に近い年齢の若者自らの意思で意見を述べる姿が心強く感じられた。また、道の状態に関する意見では、子ども目線で「でこぼこ道」や「水溜り」に関する具体的な課題が挙げられ、車を運転する大人が気づきにくい問題も指摘されているのが良いと感じた。

アンケートの中では、中学 1 年生が「同じ内容でどれだけ改善できたか知りたい」と述べたり、高校 2 年生が「今回と同じことをもっと話し合いたい」と答えるなど、自分たちの意見が実際に反映されるかを注視している姿勢が見られた。参加して終わりではなく、次につなげようとする子どもたちの姿勢は素晴らしく、それに応える必要性を改めて感じさせられる内容であった。」

〈委員 E〉

「ワークショップの実施報告書では、アンケート結果で「楽しかった」「内容が良く分かった」などの肯定的な意見が多く、また開催するのも良いと感じた。さらに、「カラオケや遊べる場所が少ない」との意見があり、自身も同様の課題を感じている。カラオケの設置が難しい場合には、昔ながらの遊びを子どもたちに広めたり、新たな遊びを町で創出したりする方法を検討してみるのも良いのではないかと考えた。」

〈委員 F〉

「ワークショップでは、アイスブレイクによって緊張がほぐれ、意見交換がしやすくなった点が良かったと感じた。また、班ごとで自己紹介の時間を設けて、名前を呼び合うことでさらに意見交換がしやすくなる工夫があれば良いと思った。西小学校についての意見交換では、昔から感じていた課題が現在も続いていることを知り、周囲との意見交換の重要性を再認識した。また、不満を自由に言える環境があれば良いと感じた。さらに、子どもたちの視点で体育館の暑さなど具体的な課題が共有され、良い意見を聞くことができた点が良かったと感じた。」

〈委員 G〉

「ワークショップを通じて、子どもたちが自分の意見を述べる体験ができたことは良い取り組みだと感じた。うちの事業所の子どもたちも参加し、公園に遊具が少ない問題や遊ぶ場所の不足といった声が上がっているとの報告があった。また、子ども同士のつながりの薄れや体を動かす環境の少なさが課題であると感じられた。特に部活動が減少傾向にある中で、スポーツをする環境を広げる必要性を強く感じている。2031 年の奈良国体に向けて、現在の子どもたちがよりスポーツ

に親しめる環境を広陵町に整えることが求められると考える。」

〈委員 H〉

「広陵町の子ども会議やワークショップを通じて、こどもの意見を吸い上げる機会が増えており、良い取り組みであると感じている。具体的には、熱中症対策として体育館にスポットクーラーを導入し、大会時や全校児童での集会時にも活用して校歌斉唱などを行いたいと考えている。また、こどもの居場所づくりについても積極的に周知を行い、利用促進を図っている。町内でどのぐらいの利用者がいたのかを教えていただきたいと思う。」

〈委員 I〉

「今回のワークショップでは、幅広い年齢層の意見やこどもの気持ちを聞いたことが非常に良かったと感じた。対象は 4 年生からであったが、保護者の意見もさまざま寄せられており、このような意見を反映できる場がさらに増えると良いと思う。例えば、夏には遊ぶ場所が不足しているため、幼稚園での預かりを利用するこどもが増えたが、子育て広場の利用人数には限りがあるため、遊び場の充実を求める保護者の声が聞かれた。小さなこどもの保護者にも意見を聞く機会を増やすことが必要であると考え。」

〈委員 J〉

「今回のワークショップでは、発言を否定せず他人の意見を受け入れる環境が整っており、とても話しやすい場であったことが報告書を通じて分かった。「楽しかった」というアンケート結果にもその雰囲気も反映されている。また、こどもたちの率直で時には厳しい意見がしっかり反映されているのを感じた。重要なのは、自分の発言がどう改善に活かされるかを結果として見せることであると実感した。保育園ではまだこうした機会に参加することは難しいが、自分の思いを伝える力や他人の意見を受け入れる姿勢、そして基本的な挨拶の大切さを教育の中で重視していきたいと改めて感じた。」

〈副会長〉

「意見書を拝見し、こどもたちが自分の意見や行動の結果を実感できる環境を作ることの重要性を改めて感じた。私自身、週末に居場所づくりや行政職員として活動しているが、こどもたちと地域について話す中で「結果を知ること」の大切さを実感している。報告書にそうした内容が伝わっている点は素晴らしいと思う。一方で、すぐに実現するのが難しいこともあり、こどもたちが自分の意見を言ってよかったと思える環境づくりが課題だとも感じている。最近のこどもたちはゲームだけでなく、雑草などにも夢中になっており、そのような様子を見て地域での活動を工夫する大切さを感じている。」

〈会長〉

「報告書を読んで感じたのは、インフラに関する課題が多いということだ。広陵中学校では約 8 割が自転車通学であり、道路整備状況がこどもたちに直接影響を与える重要な問題だと認識した。」

また、町の体育館にはクーラーがないことを知らず驚いた。運動会で使用する際には暑さへの対応が課題である。さらに、常設のこどもたちが安心して遊べる場所がない現状も非常に残念だと感じている。子育て世代からの声を踏まえ、インフラ整備や環境改善が進むことを期待している。」

〈教育長〉

「ワークショップ1日目に参加したが、小学生から大学生まで世代を超えた縦の繋がりが生まれる場として非常に良い取り組みだと感じた。最近のこどもたちは学年内の横の繋がりはあるが、縦の繋がりが少ないため、その重要性を改めて実感した。縦の交流を通じて、下の子への優しさや指示する経験が得られることは、こどもたちの成長にとって大切だと感じている。

最近のこどもたちは外遊びの時間、空間、仲間(いわゆる「三つの間」)が不足しており、それが体力低下の原因になっている。この問題を解決するため、スポーツ振興や遊び環境の整備が重要だと考える。外遊びによって体幹が自然に鍛えられるなど、こどもの健全な成長を促すためにも、政策として取り組むべき課題だと思う。こどもたちの意見を積極的に取り入れることの重要性を強く感じている。

具体的には、体育館のクーラー設置やバイキング給食の導入を進めるなど、こどもたちの要望を実現するための努力を行っている。こどもたちが主体的に考え、意見を述べる場を設けることは非常に大切であり、大人が中心となりこどもたちを受け身にさせるのではなく、こどもたち自身の主体性を尊重しながら進めていくべきだと考える。

コミュニティスクールの研修会では、こどもが主体になれていない現状が問題視されていた。大人がこどもをお客さん扱いすることが多く、こどもと一緒に取り組む姿勢が不足しているとの指摘があった。こどもたちを主体に置き、その意見を反映させることが重要であり、それこそがこども計画につながる重要な取り組みであると感じている。」

〈事務局〉

「こども主体のワークショップが進められたことは、こどもたちにとって良い機会となった。多くの意見を集めて分析し、今後は各課で対応を検討していく。年明け頃にはワークショップに対する回答を考えている。また、こども計画の素案については、こどもや地域の皆さんに確認をいただき、パブリックコメントを求める予定である。

こどもが自主性を発揮し、主体的に行動する力を育むことを計画に盛り込み、親、学校、地域が協力してこどもを育てる体制を強化していきたいと考えている。こどもの挨拶の重要性や社会性の育成については、ワークショップを通じて課題を探り、こどもたちの生の声を大切にしていきたい。また、公園でのボール遊びがしづらい現状において、近隣住民への配慮をしつつ、こどもたちの遊びの場をどう確保するかを担当課で検討していく必要がある。こうした課題についてはフォローアップを行い、具体的な対応策を関係者と共に進めていく。

委員がお話しされていたこどもの居場所の利用状況については、後ほど報告の機会を設ける予定である。」

〈事務局〉

「ワークショップに参加し、高校生や大学生が各班に加わっている中で、高い年齢層の参加者が自然に若い意見を引き出す場面が見られた。参加者全員でルールを作り、自分たちで考えた内容が反映され、意見を否定せず、相槌や褒め言葉を使うなど、円滑なコミュニケーションが行われた。これにより、参加者が主体的に考え、生の声を集められる有意義な場となったと感じている。こども計画だけに留めるのはもったいないため、今後はこども政策課でこのような取り組みを広く活用していきたいと考えている。

意見へのフィードバックは単に「頑張る」という言葉だけではなく、できない場合にはその理由や状況を具体的にこどもたちに説明し、理解を得られるように進めることが重要であると考えている。委員の意見を受けて、幼稚園の夏休み期間中に預かり保育以外にも親子が集まり遊べる場所としてクーラー付きの部屋を活用できないか検討している。今年度は間に合わなかったが、来年度の夏休みに向けて、就学前のこどもと保護者が涼しい環境で過ごせる居場所を提供することを目指している。

こどもたちへのフィードバックやホームページでの周知を通じて、この取り組みを進めていく所存である。引き続きよろしく願います。」

〈事務局〉 議事(2)について説明

配付資料に沿って、就学前教育・保育施設(幼稚園・保育園・こども園)及び放課後子ども育成教室の状況について説明を行った。

〈委員〉

「ファミリー・サポート・センター事業について詳しい情報を初めて知り、大変便利だと感じた。今後活用を考える際に、どこを見れば詳細が分かるのか教えてほしい。」

→〈事務局〉

「ファミリー・サポート・センター事業については、広陵町のホームページや子育て応援サイトで詳細を確認できる。疑問があればこども課や社会福祉協議会へ電話で相談すると、利用方法や登録について説明が受けられる。不明点があれば気軽に問い合わせしてほしい。」

〈委員〉

「ファミリー・サポート・センター事業は良い制度であるが、まだ周知が十分でないと感じる。広場や研修場所、新生児訪問などの場で情報を提供し、子育て支援制度についてお母さんたちへ丁寧に説明する機会を増やしてほしい。忙しい中で大変だと思うが、支援が必要な方が多いので、できる範囲で取り組んでいただきたい。」

〈事務局〉

「先また、今日の子ども・子育て政策説明のような機会があれば、ぜひ参加し説明したいと思う。研修時のチラシ配布のような取り組みも継続し、事業内容が保護者の目に届きやすい形で情報提供を進めていきたいと考えている。よろしく願います。」

〈会長〉

「ホームページを拝見したが、子育てサポートセンターのサイトがトップページに見当たらなかった。検討いただけると幸いだ。」

〈事務局〉 議事(3)について説明

配付資料に沿って、こどもの居場所事業の報告を行なった。

「こどもの居場所事業は、夏休み期間中である 7 月 19 日から 8 月 31 日までの間、小学生から 29 歳までの若者を対象に、1 人でも立ち寄れる快適な居場所の確保に向けた実証実験としての位置づけで実施している。近年の夏休みは暑い日が多く、小学生の保護者からも冷房の効いた部屋でこどもが 1 人でも過ごせる環境があればという声を受け、事業者との協賛によって実現した。開設施設は「特別養護老人ホームおきなのだ」、 「奈良トヨペット広陵店」、 「イズミヤショッピングセンター広陵」、 「さわやかホール 1 階」、 さらに 8 月 21 日から「エリシオン真美ヶ丘」が新たに開設されたため、現在は 5 か所で実施している。いずれの施設も無料で利用可能である。利用者アンケートの結果を見ると、概ねまた利用したいというニーズの声が届いている。実施期間終了後は結果を分析し、今回の結果や課題点を踏まえ、今後の居場所づくりに反映していく。また、こどもの居場所事業を通年的に実施できないか、交渉も進めていきたいと考えている。」

〈会長〉

「昨日おきなのだを訪問し、施設長と話をした。今後、土日に施設を利用可能とのことである。また、長期的には不登校のこどもの第 3 の居場所として提供する提案もいただいた。よろしく願います。」

〈会長〉

「議事を終了する。」

5. 閉会

(以下余白)